



○保護者をお願いしたいこと

- 原籍校の教員に可能な限り入院する病院名や病状等を伝える。

入院期間中には、学習課題の提供、学級の友達との手紙やビデオレターの交換等、教員が病院を訪問する機会があります。病院名や部屋番号を伝えるとともに病状についてもできる範囲で説明しておくといいです。また、分かっているならばどれくらいの入院期間になるかも伝えておく、学習課題をどれくらい用意すればよいか、訪問の頻度等、原籍校の教員が入院中の支援を考える際に役立ちます。ただ、本人の病状や入院先の病院の規定により、面会自体ができない場合もありますので、そうしたことも含めて、原籍校の教員に伝えておくといいです。

しかし、保護者自身や本人が上記のことを伝えるための心の整理等がまだできていない場合には、無理に入院時に伝える必要はありません。話せるように心の整理ができた時に伝えるようにすればよいです。ただ、そうした時も教員はとても心配しているので、定期的な連絡だけはとるとよいです。

- 入院中の生活や学習で必要な道具等の準備は本人と一緒にやる。

入院にあたって必要な学習道具や生活用品等の準備は、本人が自分でできるように、保護者の方は本人への支援に心がけるとよいです。もちろんその時に本人が出来る範囲での準備でよいですが、これはとても大切なことです。入院生活に必要な物を自分で考え準備することは、わずかかもしれませんが、病気や治療に対する前向きな姿勢を引き出し、入院への心の準備とともに、その後の治療に対する意欲の向上にもつながります。

【学習道具の例】

- 教科書、ノート、参考書、ファイル等
- 筆記用具
- 電子辞書
- タブレット端末やノートパソコン(入院先の病院に持ち込みの確認をする)
- イヤフォン、ヘッドフォン

- **兄弟姉妹への様子に気を付ける。**

入院時はつい病気のお子さんにばかり目が向きがちですが、そのことで兄弟姉妹は自分の存在が大切にされていないような気持ちを抱くことがあります。それに加え、大切な家族が病気になったことに対する不安もあります。兄弟姉妹は、他の家族を心配させないように気遣い、そうした不満や不安を表に出さないことがあります。

何かいつもと違う様子があれば、あるいはいつもと変わらない様子であっても折をみて、いま抱いている思いについて聞いてみてください。その思いを受け止めることで「自分のことも分かってもらえている」という安心感を兄弟姉妹に与えるとともに、心の状態を把握し、必要な対応を考えることができます。また、普段通りのことを普段通りしてくれるだけでも、保護者の方にとっては助かるはずです。そうしたささやかでも大切な協力に対し、「ありがとう」「助かるよ」等と言葉をかけることが兄弟姉妹の心の安定につながっていくことが多いです。

- **不安なことは原籍校や院内学級の教員、医師、看護師等に相談する。**

病気のこと、学校のこと、保護者自身の生活リズムの変化等、不安はたくさんあると思います。しかし、それを放置しているとどんどん悪い方向へ考えてしまったり、本人の不安を増長したりすることにつながります。「こんなこと聞いてもいいのだろうか」等と遠慮せず、わからないことや不安なことは教員や医療者に伝え、一人で抱え込まないようにしましょう。その際は、事前に「何に対して不安を抱いているのか」「どうなることを恐れているのか」といった不安の中身を具体的にまとめてメモしておくことで、ご自身の中で不安の中身を整理でき、伝える際には簡潔に伝えることにも役立ちます。